



明治廿五年  
総選挙之記

嬉野米一斗記

序

予豫ク廿五年迄選奉記ヲ作ル所島  
 民改定支那ニ量セシトノ意アリシモ不  
 ニシテ<sup>病棄</sup>定全ノ書籍ヲ何事スル能ハス  
 ナ月中文部山ノ民之民之迄選奉記ヲ  
 撰出ヤシト令氏ハ病棄中ノ事ニ可  
 シタルモノト思ヒ更ニ之ヲ修メテ支那長  
 杉浦氏ヨリ量久致クハ折ラレシハ同志ノ  
 士、関悦ヲ結ハ、幸甚ト云ん以テ  
 昭和六年十月

氏部考伝略記支那  
評伝及

埴野木一也

談書ハ予ノ言ノ処ヲ他人ニ筆記セシメ設ク甚  
ソ多シ注意ノエ申通讀被下度候

明治二十五年總選舉考記

明治元年正月三日幕軍京師ニ敗レ同月六日大阪  
城ニ逃ケ来ル同日徳川慶喜大阪ヨリ南陽丸ニ乘  
リテ江戸ニ逃ル官軍追撃シテ江戸城ニ迫ラントス  
同年四月十二日薩州藩士木梨清一郎水野彦三郎  
大村藩士渡辺清左内三人ニテ江戸城ノ間々渡シテ  
慶々徳川慶喜家康天正十八年八月一日此ノ城ニ入ラテヨリ  
二百七十九年ニシテ官軍ノ手ニ落ツ  
同年三月十四日五ノ條ノ御誓言文ヲ發布セラレ是レ  
立憲政体トナル創源ナリ

明治元年正月八日 姫路藩主ヨリ藩籍奉還、建議  
アリ明治二年一月三日薩長土肥 連署シテ藩籍奉  
還、建議アリ

明治元年七月京都、帝都ヲ江戸ニウツシ給フ江戸  
東京ト改メラル

明治二年藩籍奉還ニ依リ藩知事ヲ置テ即チ旧藩主  
以テ知事ニ任シタリ

明治四年廢藩置縣トテ我が肥前國、藩籍奉還ト如シ  
鍋島直虎 禄高三十五石七斗石 士族一万千九百人

但シ武雄須古多々 練早 神代 深塚

久保田 川久保 白石 茅此ノ内ニ入ル

鍋島直虎 小城 禄七万三千二百五十二石

士族千三百六十四人

鍋島直紀 蓮池 禄高五万三千六百石

士族千十八人

鍋島直彬 鹿島 禄高二万石 士族七百九十三人

小笠原長回 唐津 六万石 士族千九十四人

大村純滋 大村 禄高二万七千九百七十七石

士族三千七百五十二人

五條盛徳 福江 禄高一万二千六百石 士族四百九十三人

松浦詮 平戸 祿高六万七千七百石 士族三千五百七十八人

松平忠和 島原 祿高七万石 士族三千三百三十八人

宗義速 嚴原 祿高五万三千六百石 士族九百九十四人

明治四年 廢藩置縣トナリ 郡縣ノ制之ナリ

明治四年 九月四日 伊万里縣ヲ置テ 嚴原縣ヲ併ス

明治五年 二月二十九日 伊万里縣ヲ作置ス ヲツス 嚴原島ハ長崎

縣ニシツクス 大宰府ニ

明治九年 四月十八日 佐賀縣ヲ三潯縣ニ合併シ 佐賀縣ヲナリ

同年 五月二十四日 長崎縣ニ屬ス

明治十六年 五月九日 佐賀縣ヲナリ

明治四年 十月八日 制度取調ベトシテ 特命全權大使ヲ 歐米ニ派遣ス

但シ全權大使 岩倉具視 副使 木戸元允

大久保 利通 伊藤博文 山口尚芳

明治四年 職多シ非人 稱號ヲ廢止ス 所謂士ハ従前

ノ士ニアラス 農ハ従前ノ農ニ非ズ 商モ従前ノ商ニ非ズ

工モ従前ノ工ニ非ズ 皇國一般ノ人臣

明治四年 各藩旧大名ハ東京ニ移住スベキ事ヲ命ぜらる

明治五年 徴兵令ヲ發布アリ

明治五年 小學校令ヲ制定アリ

安住百太郎氏  
佐藤新平  
中津津勢  
中津津勢  
中津津勢

此、年旧士族、幣カヲナサザルニ自由ナリトノ布達有  
明治六年十月二十四日征韓、議敗レ、副島種臣  
江藤新平西郷隆盛板垣退助後藤象次郎官  
職ヲ退ク

明治七年一月 江藤新平佐賀ニ乱ヲ起シテ敗北ス  
此、戦ニ官軍トシテ旧士族、其カ集ニ應ジ西郷  
佐賀ニ進軍シタルハ大村三山隊武雄ニ山隊須古  
一山隊 多クニ山隊ニシテ合計ハ百餘名  
高シク除族、度四討ヲ受ケタルハ多ク、安住百太郎  
須古、山崎重夫西氏ナリ

明治七年五月長崎師範學校ニ於テ教員養成生  
生徒ヲ募集ス

明治八年四月元老院大審院ヲ設置ス

同年長崎控訴院ヲ新築ス又實ニ關西第一、建物は

同年五月西郷隆盛ト榎太ヲ千島ト交換ス

明治九年地租ヲ改正ス

明治九年士族ノ處分有リテ禄高ヲ公債證書ニテ

一時金ヲ給與ス 但シ一石四円七十錢ニテ計算セラル

明治十年西郷隆盛乱ヲ起シ熊本城ヲ圍ミシモ敗レ

敗レテ同年九月鹿兒島、城山ニ戦死ス

明治九年世  
藩ノ藩戸  
封止シ存者  
布

明治十三年縣會議員、選舉アリ、松田正久  
縣會議長タリ、武雄、松尾芳道副議長タリ

松尾芳道時ニ、元年三十一當時縣會議員トシテ

前年現シタルハ多ク、牛島秀一郎、神代、志波元郎

平戸ノ立、大村、朝長、慎三及ヒ前記、正副

議長等ナリ、立石、大村、朝長、慎三及ヒ前記、正副

議長ニ當選ス、此、時、村島、郡、縣、會議員、小柳信助

山口六平、黒木牧之助、松尾芳道、山口小一ナリト記

憶ス、西松浦、河原茂助、縣會議員ニ當選ス

此ノ時代ヨリ、佐賀縣ニ政黨起リ、郷党日成是ナリ

郷党派ノ主領ハ、松田正久、武富、時敏、村岡致遠

同成會ハ、江副靖臣、家永、茶種、河原茂助

明治三十年縣會議員、選之ナリ同年夏、秀澤

北ヲ入口、西ニカタル事ニ於テ、世子術研究會、不

以テ、花會式ヲナシ、郷党會ノ援助機同ナリ

大所、江正明、南朝、黒木牧之助

綿江、荒島太助之カ主幹タリ、須古ノ

三城、慈孝、議案説明、任ニマタル此ノ會ニ出席

シタル者ハ、須古、原目清吾、娘野敬一郎

明治十八年  
北支大崎ノ  
馬上味ノ  
トシ子ルユ  
事或凌ス  
當時此ノ元

長、飯盛  
八三ナリ

天下ニ  
歎ス

北有明、川崎辰一郎

須本、川崎、福市、九武、志士

其他二百余名ナリ

武雄ニハ木村藤太郎法律討論會、名ヲ以テ

會ヲ組織シタリ是レ同成會、機關ナリ

同年公証人試験アリ野口十歳安住百太郎

木村藤太郎河原茂助及等ス

野口十歳ハ東郷高身少學校長

安住百太郎ハ多ク學業出身須正及佐賀ニ私塾ヲ開ク

木村藤太郎ハ明治十年西南戦争時長崎ニ非常逃

查日揮名シ日見峠ヲ警戒シ其後中學校教員ナリ

縣會議員トナリ

河原茂助ハ何方里所役場書記記秘書記ナリ

縣會議員トナル

明治十年西川登、中村玄道武雄ニ獨立會ヲ

起シ改進黨主義ナリ中村ハ長崎師範學校ノ

出身ナレドモ其ノ時分ハ父ハ眼科醫師ニシテ富者

ノ家柄ナリシ故教員トナラス

明治十年北方大崎ニ遊内ニ水ヲ落シ込ミテ刑事ノ

事件起ル

明治十年頃松浦巽氏ハ熊本裁判所ニ奉職

山下義之氏ハ東京明治法律學校ニ在學



松尾芳道氏ハ東松浦郡長ニ奉職

山口小一氏ハ佐賀土不課ニ課長奉職

寒久藤崎能夫氏ハ熊本縣出務課長奉職

武雄ニ位景暢氏ハ杵島郡長奉職ニ等郡書記ハ

志波敬明(佐賀出身)ニ等郡書記山下祐次郎(六南出身)

三等郡書記今泉信富(武雄出身)四等郡書記

千綿~~某~~武重一郎古川武吉郎此等皆平

黒川潜宮地俊行 雇員前田宗則執行修生

修~~某~~岩永彦藏 金丸要八川浪良温 大宅龍一

川浪保一溝上大次郎坊所善八柴田知康

此ノ時代ハ戸長官選ナリ明治三十二年町村制實施ニ  
及テ民選トナル也

明治三十二年十一月有田源一郎 山セ、松尾敬信發起人  
トナリ小田正栄寺ニ民友會ト名付ケ集會不同成會  
ノ機關ナリ 集會スルニ 三百人 是レ武雄ヲ 出席  
者多クシテ 東部ハ少シ 名義ハ 懇親會ノ 名義ナリ  
以上ハ沿革ヲ述バタルニスギズ

明治三十一年武雄ニ有田ニ通スル縣道ノ工事アリ

明治三十三年六月衆議院議決、選挙アリ、第一区中城  
以東、私田<sup>正</sup>武富時敏当選シ、第二区東西私浦  
天野為之、河村藤四郎ト競争ナリシモ天野当選シ  
第三区杵島藤澤二位、櫻暢氏当選シ、而シテ  
政府党及ビ反對党左ノ如シ  
政府党

大政会七十五人

國民自由黨六十五名

政府反對党

立憲自由黨一百三十五名

立憲改進黨四十二名

無所屬

四十二名

第一期議会の明治三十三年十一月三日ヲ以テ召集セラレ  
貴族院議長、伊藤博文ニシテ衆議院議長ハ中島  
信行、副議長ハ津田源道ナリ

政府提出、豫算ハ八千七百四十万、余額ナリ

此、内、六百五十一万ヲ減ジ、議会ヲ通過ス

明治三十四年九月六日、總理大臣山縣有朋、辭職シ

松方正義内閣ヲ組織シ、其、内、負左ノ如シ

内閣總理大臣兼大藏大臣、伯爵松方正義

陸軍大臣 五月十七日陸軍大臣  
大山岩辭職

子爵 高島勲之助

外務大臣 五月十九日外務大臣  
青木周藏辭職

子爵 榎本武揚

文部大臣 六月一日芳川謙正辭職  
梶野義典長官轉任大臣

伯爵 大木喬任

司法大臣 六月一日司法大臣  
山田謙義辭職

子爵 田中不二麿

內務大臣 六月一日內務大臣  
西鄉從道辭職

子爵 品川彌二郎

逓信大臣

伯爵 後藤象二郎

農商務大臣

陸奥宗光

海軍大臣

子爵 樺山資紀

第二議會、明治三十四年十一月三十一日ヲ以テ召集セラル

政府提出豫算ハ前年ニ比シテ歳入ニ於テ三百四万

六千五百五十余圓ヲ増ス歳出ニ於テ六百四十九万五千六百圓ヲ

増ス而シテ豫算委員會ハ歳入ニ於テ五十九万七千七百

六十三月ヲ増シ歳出ニ於テ四百三十七万八千三百三十三月ヲ減スル

方針ヲ取リ多ク而シテ削減シ軍艦製造邊易及ヒ

製鋼所建設立替ヲ削除シタリ之ニ如シ樺山海軍大臣ハ

帝國ノ實力ヲ擴メ海軍ノ聲譽ヲ輝カシムルコト決シテサカ

ズト云ヒ一歩ヲ進メテ維新以來内外ノ多ク難ニ贏チ得テ

帝國ノ今日ルヲ致シタルモハ是レ誰ノカツキニ所謂

薩長政府ノカニ非ズヤト放言シタリ此ニ於テ樺山

演說中薩長政府ノ一言ハ勿クシ滿場議員ノ頭腦ヲ

刺戟らたり議事小群起シ其、無礼ヲ責ム而シテ  
十二月五日豫算會議ニ於テ松方首相の自ラ議場臨ミテ  
不同意ヲ表シ與電ハ井上角五郎リ査定案ニ對シ豫算案  
再調査ノ動議ヲ提出セシモ民黨ハ一顧ニダモ値セザリキ  
而シテ議會の憲法第六十七條規定ニ依リ歲出ノ廢除削減ニ  
関シ將同意ヲ求メントスル一致ヲ詔勅降下衆議員ハ解散  
セラレタリ是レ事實ニ明治廿四年十二月五日ナリ  
衆議員臨時總選舉ハ明治廿五年二月十五日ヲ以テ舉行セリ  
テ此ノ臨時總選舉ハ憲政消長ニ關係スル重要ナル總選舉ニシテ  
我が國民が記憶ニ留ル能ハル歴史的總選舉ナリ

他無シ藩閥的勢力カト民衆勢力ヲ輒贏ラ決シタルハ實ニ此ノ  
總選舉ナリシヲ以テナリ是レ先ニ松方首相ハ議會解散  
ト同時ニ西川樺山高島、諸相ト相謀リ民黨ヲ壓迫シテ  
與黨ヲ以テ議會ハ大勢力ヲ制セントセリ而シテ松方内閣中心  
勢力トシテ專ラ選舉ヲ決シテ衝ニ當リタルモ品リ内閣ト其ノ  
股肱タル内務次官白根專一其ノ人ナリキ彼等ハ民黨ヲ  
以テ破壞主義、後ト看做シ彼等ヲ撲滅スルヲ以テ  
國家ニ錫ス所以ナリト盲信シ選舉取締リノ爲ニ内閣  
シテ各地方長官ニ對シ反對派ニ對シテハ高圧的手段ヲ執  
ルノ已ムベカラザルヲ以テシテ極力與黨候補者ヲ擧ゲルニ努メタリ

選挙于法、猛烈ニシテ其ノ競争ノ深刻ヲ極メタルハ、憲法政  
史上未ダ曾テ見ザル所ナリ

民黨ノ領袖ハ猛烈起テ之ニ当ルニ決シ朝野其ノ死カラ禍  
當選ヲ争ヒシカバ陰謀選挙ニテ決シ~~其ノ候補者~~  
各地方到處トシテ激烈ナル競争ヲ見ガレハナカリキ地方ノ長次官若クハ  
警察吏ハ陰謀選挙ニテ決シ~~其ノ候補者~~ニ爲ニ民黨候補  
者<sup>ハ</sup>妨ゲ其ノ大恩ヒキハ官服ノ整齊官ニシテ買収運動ヲナシタル  
者アリ選挙人ヲ傷マラサルモアリ~~其ノ候補者~~横行シテ或ハ劔ヲ抜キ  
或ハ家ヲ焼キ或ハ人ヲ殺シタル者アリ選挙場裡ハ乱闘混戦ノ極  
殺氣暗澹ノ光景ヲ實現シタリ其ノ于法、最も猛烈ノ極メタルハ

地方ハ高知石川佐賀ノ縣諸ナリキ此ノ際政府ハ勅令第  
十二號ヲ以テ豫戒令ヲ發布シ臨時保安條例ヲ實施シ  
競争ノ最モ激烈ナル地方ハ高知ニテ決シ~~其ノ候補者~~セリ就中高知ト  
佐賀トハ民黨兩首領ノ出身地ニシテ民黨勢力ノ根據地  
トモ云フベキ極要ナル地方ナリシヲ以テ政府ハ極力之ヲ迫害スル  
ニ努メ高知縣中ニ五ノ暴漢ノ爲ニ投票箱ヲ奪ヒ去ラシ  
再投票ヲ行フ怪事ヲ演ジ佐賀縣中ニ三五ノ熱擾激甚  
ナリシガ爲メ法定期日ニ至ルモ其ノ投票ヲ行フ能ハカリキ  
流血ニ剛山不屈ナル大隈ヲシテ時事ニ憤慨シ痛涙ヲ  
揮ヒシメタリ當時自由黨ノ領袖九州ノ若手

山田武甫殿の詠じら日ク

殊更ニカキミタサカハ村里ノ

水モカケマデ濁ラガルマシ

亦以テ選挙干渉ノ如クニ一般者ヲ極多リシ事ヲ想察スニ是レ  
政府ニ選挙干渉ニ要スルキ費用トシテ機密出費  
ヲ百圓日及日本銀行正金銀行郵船會社等  
ヲ以テ一般市用商人ヨリ多ク百圓日ヲ徴シ合計  
四百百圓ヲ用意シテ一縣知事書記官等に現物  
ニ立會監視ノ上其他ノ市用党ノ党目等ニ配  
布セシメ急選挙運布知悉スルヤ各代ノ等々

官ニ市用社ト共ニ民費ノ選挙干渉ヲ踏躰シ  
或ハ投票シテ民同力者ノ定ラ包圍シテ同  
士同ノ交通ヲ妨ケ或ハ威嚇思辨シテ土足ノ俸  
其兵團ニ闖入スルナド暴行重クせんナラハ殊ニ  
自由党ノ奈様代官ニ為知照ノ如クハ干渉ノ慘  
害ヲ蒙ル事也也甚テ民費側ニテ之ニ對  
抗シ以テ刀槍ヲ以テ度々合ニ火花ヲ散ラシテ  
闖ノ有極戦場ニ異ナラズ政府ハ此輩ノ事ニ  
テ思フ様行カサレハ見ルヤ官の兵ヲ出シ軍隊  
ヲ動かシ人民ヲ鎮撫スルナラハ極シテ實ニ民

受テ全滅セシト試ニ遂ニ大砲ヲ放テ人家ヲ  
 燒キ屠メニ為知時下ノ死者十人員傷亡十人  
 人ト算セラルル投票ノ当日ニ至レハ且豊徳社  
 仕士ノ脅迫一層烈ニシテ民衆側ノ有権者心  
 ナラズモ政府委員ノ修補者ニ投票完アリ或ニ序  
 用仕士ニ投票函ヲ來セシテ再投票ヲ為セル  
 奇怪事ナリ、却リ又為知時ニ次テ政府ノ干  
 渉烈シヤリシハ大隈ノ出身代佐順ニテ既ニ此  
 元ト九州府政委員一部ノ振興代テレハ政府ニ此  
 際全カヲ以テ既ニ投票横濱ニ在ラサルニ時ノ文

部大隈ニ木高任ハ佐順ノ出身ニテ形勢ヲ迎  
 ヲル外ニサシテ能キキ好人物ナレハ既ノ際政府對  
 シテ一廉ノ手柄ヲ立テ身ノ面目ヲ籠カレト甚  
 里ヨリハ一人ノ出資議員ヲ出サリソレトシテ  
 シ佐順知縣ヲ長ニシテ乱暴者ノ國ハ高  
 キ田中紳士ニ内意ヲ余ノナリ田中紳士ハ既ニ  
 此意ハ勿論土地ノ博徒仕士ヲ使誘ヒテ良民ヲ脅  
 迫シ若シ政府委員ノ議決ニ投票セサルニ時ニ若  
 ナク斬棄ハレト部下ニ命令シシレバ民衆側  
 ノ士氣等々之ハ憤激シテ又刀劍ヲ携ヘテ奔

走じ為メニ関帝各地に起り會々民安世士能  
が先漢の押、ラ習々秦ニ若出ニ對シ又ニ更ニ更  
付スレトテ高テ士族等ノ行初テ非難シ又其縛  
カレテ若出サレタリ先漢等ニ對シ又ニ更ニ更  
急ニ元來付テテハ役以テテ者ナリト揚言シ得  
タタリ抑テテ依順全作ノ聲索皆斷行ノ為  
メニ聲迫サシ選葬當日ニニ軍隊高無ク也  
初トナリ死者八名負傷者九千ニ及テ出シ  
第三日ニテハ空日ニ選葬ヲ行フ試リスレテ  
正期トナリ一國同聲此方揚下流流リニ村

一選葬リ也

選葬ニ於テ是時ノ官吏長ノ如シ

知事 振山資雄

軍部長 田中伸六

河野村長 沖氏澤身 (當時河野村長トナリ長クニヤ知リス)

空頭會々軍長 宮本壽一

馬場村長 月俤田長

津島村長 田中伸六

武蔵全縣ニテ月俤田長



次侍部卿

村山長子

生於嘉永元年二月廿七日

嘉永元年二月廿七日

白仁里捷

生於嘉永元年二月廿七日

少卿

武高時親之

生於嘉永元年二月廿七日

牛津

相田正實

生於嘉永元年二月廿七日  
武高時親之

余田五方

生於嘉永元年二月廿七日

少卿

少卿

生於嘉永元年二月廿七日

生於嘉永元年

生於嘉永元年

生於嘉永元年

李氏分置長

廣江多級

生受市出身月降於五月

唐長安多茶置長

中山善次

唐律可出身二月降於五月

法理分置長

柔榮之進

生受市出身二月降於五月

何方置子多置長

杜兒子為節

柳梅人二月降於五月

沈律為節

李氏分置

滋頌別出身二月降於五月

之聖節長

友立置結

柳梅人二月降於五月

方田分置長

新廣置定

佐賀予出身ニシテ月俸拾石目

但令人ニ曰藩時代ニ福高万石予

唐守野々野々長

相対ニ曰

無事ある身ニテ月俸三石目

相知ニ長

少柳荒山守

唐守の世身ニテ月俸拾石目

東尾分置ニ長久分置ニ予時分置ニ予

分置ニ四置長ニ印籠セ久

佐賀監獄四置長

六角耕雲

佐賀市出身

村長印長ニ何部印長ナリ 此ノ人ニ久置米出身ナリ

監獄置、名有字、ニ也吾ニ代用ニ予進奉

事始ニ古ニシム

監部部長田中坤六ニ前記ノ置長ヲ置長

中印ニ相承ルニ干海、封策ヲ授ケ置長

ニ予置ニ始ルニ之者、相承ルニ行。

討策ヲ授ケテ曰ク今中法選奉ノ期  
日近中ニアリ身貴ノ謀合ニ於ケルハ  
國ノ行政機界ヲ軍中<sup>内</sup>以テ<sup>中</sup>軍機  
若クモ<sup>中</sup>初減セリ他ヲ<sup>中</sup>解部  
ナレリ抑モ身貴ノ<sup>中</sup>軍機<sup>中</sup>國  
シテホス又ノ<sup>中</sup>國<sup>中</sup>保衛ス  
ハ役<sup>中</sup>之<sup>中</sup>抑<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
政權<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
ナリ<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
左<sup>中</sup>選<sup>中</sup>

討策ヲ授ケテ曰ク今中法選奉ノ期  
日近中ニアリ身貴ノ謀合ニ於ケルハ  
國ノ行政機界ヲ軍中<sup>内</sup>以テ<sup>中</sup>軍機  
若クモ<sup>中</sup>初減セリ他ヲ<sup>中</sup>解部  
ナレリ抑モ身貴ノ<sup>中</sup>軍機<sup>中</sup>國  
シテホス又ノ<sup>中</sup>國<sup>中</sup>保衛ス  
ハ役<sup>中</sup>之<sup>中</sup>抑<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
政權<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
ナリ<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
左<sup>中</sup>選<sup>中</sup>

才一五

討策ヲ授ケテ曰ク今中法選奉ノ期  
日近中ニアリ身貴ノ謀合ニ於ケルハ  
國ノ行政機界ヲ軍中<sup>内</sup>以テ<sup>中</sup>軍機  
若クモ<sup>中</sup>初減セリ他ヲ<sup>中</sup>解部  
ナレリ抑モ身貴ノ<sup>中</sup>軍機<sup>中</sup>國  
シテホス又ノ<sup>中</sup>國<sup>中</sup>保衛ス  
ハ役<sup>中</sup>之<sup>中</sup>抑<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
政權<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
ナリ<sup>中</sup>海<sup>中</sup>可<sup>中</sup>  
左<sup>中</sup>選<sup>中</sup>





官竟

川原茂輔 中村千代助

若島守吉 掛 具名要也

杉平其右衛門 (後) 前田孫之助

氏光

杉原重之丞 副 杉原智方

西園結介 若田孫之助

杉原守

官竟 方田守一 山崎一 倉田安入

木村重隆 中村公通 堀又吉

少柳信介 山崎安平 千原安房

中島伸長 少島長典 (飛)

氏光

二位基綱 官原重頼 銀葉

藤守市 馬木好之助 鏡之江

山崎 杉原重 山崎茂三 田

文次 川崎重平 河原辰保 市

海上方山守

須藤 山崎重文 山崎安綱 系

田吉号

若島守

富貴

富貴、貧賤、同悅、一之同、  
同、同、同、同、同、同、同、同、  
同、同、同、同、同、同、同、同、

民是

民是、民是、民是、民是、  
民是、民是、民是、民是、  
民是、民是、民是、民是、

神安印

官是

民是 相同結構

三右基印

官是

民是

加為十印

民是、民是、民是、

中一、<sup>民是</sup>民是、民是、民是、

民是、民是、民是、民是、

民是、民是、民是、民是、



信之高業ありぬし居しに副官の信  
了進ノうしに附録之りしに安下にて  
留別、字務録ニ出動せしり  
半信の文ノ下ニ此の文ノ多之り人  
の別を録長しりしり  
此の時録、別を録長しりしり  
才一類、長録院録長しりしり  
相田の文、も別を録、別を録長しり  
才一類、長録院録長しりしり  
下二七

才二七

官光

川原茂録

長光

長光の文

川原茂録、何れもその長光の文  
即書記と述べて十七日別を録長  
多公個人録長あり人  
長光の文、又その文、早稲由書  
長光、相録

才二七



異に異を長所ノ異を合部人爲米に  
遊走之

少存多ニ遊走者、少なり平乾は防隊勢  
操りおし支費力増え、米に水ヲ打  
與て自費する所所、也。此の時、米は所  
ニア、るし也。遊走者、二階ノ階より、  
おり、くんに、鉄砲、こ、り、打、お、ん、即、死  
ス。民費、此、也。若、お、遊、ん、な、支、此、上、屋、お、新  
等、支、子、二、階、了、引、落、サ、し、世、間、こ、り、お  
お、サ、ん、民、費、此、也。お、遊、走、者、こ、遊、走、し、り、え

異を長所、其の勢、之、業、ヲ、強、健、ノ、人、ナ、レ、ん  
利、終、防、中、程、中、ヲ、知、り、也。吾、を、お、り、吾、干、を、  
異、り、り、上、テ、襖、屋、川、ヲ、流、り、山、中、に、流、さ、  
川、上、こ、せ、ら、は、は、お、負、お、る、お、る、お、り、の、揚、  
テ、お、る、お、る、長、の、お、申、し、六、ノ、所、お、の、こ、テ、劍、こ  
午、り、お、る、お、る、お、る、お、る、お、る、お、り、し、に、申  
初、中、し、お、曉、ヤ、し、ト、ス、時、と、他、ノ、お、る、お、り、の  
り、劍、り、お、り、り、テ、之、し、り、止、め、田、中、お、る、お、り、長  
ハ、異、口、お、る、お、る、こ、テ、お、後、ス、ん、カ、互、に、お、り、し、ト  
言、へ、り、ト、ゾ、お、る、お、る、お、り、如、中、お、り、し、り、し





久口ニ至んかむ支士或ハ人カニテ或ハ  
徒ホニテ武將ノ揚リ而シテ武能  
ニ迫ラレト者指ノ鐵手ニ至んヤ武能  
雲長守田五万刀ノ長木守分雲長護  
美殿鎮撫ニ至ん底江留テ即ニ須  
古十核ニ至敷リ水ノ深クニ至須  
古ニ解んコトトナレリ此ノ時廣江も是  
和能守古核ノ自分ノ申事ニ必  
不期入シ莫ん古ト云入りトゾ是ッ  
以テ廣江ニ至敷ト迫ヤレトテ後ハ

須賀ノ條ヲナシ  
如助ヲ於生ノ衛突甚クシカリシク  
以テ此方橋下福後ノ三村ニ遊軍  
期日持原リ中止シ一因方ノ長敷  
要アリぬエトナシ  
以テ此ノ鎮守兵ニ婦人等シ當テ兵卒  
シ至ん無キ物ナリ~~ハ~~應接ノ事  
隨方守兵見即チ近藤野付西  
部ノ引事ナリ又此ノ各部ハ關  
リシトナレシハ各軍ヲモ應接



一死者八名  
一負傷者九十二名

教場檢閲後ノ為メ少部中ノ如ク少部員  
ヨリ出獄ニツクシテノ數乃九名シテ多人  
殺ノ事ナシハ下午五時お成セ又多ハ  
餘ノ事免刑トナシ

投擲投擲少部ノ檢閲前ハ沙石人許リ  
投擲員ありて二個ノ人カ事

空車ニテ西ニ行リ而テ戒嚴等調フニ之  
レハ雷聲戒嚴ノ事あり其ノ後ス裏道ヲ  
行中兵人ナラシト裏道ヲ見シハ河原  
田ニ名行中兵人ナリテ其ヲ捕ハシテ  
テテ大勢ヲ押搦シ之シ有テ本村ヲ  
チ河外一處ニシテ跳リ又チ控テ京  
ニ奔リ山ノ西ニ田中兵人等カ此  
處ニ兵人等之ヲ二階ニ隠シ為メニ  
ち中隊ハ兵人等止メテ  
全團ニ移リハ兵人等止メテ 百陽兵三万



八十八名ナリ

全國の國原ノ姓

氏老万三千三人

古貴九千人

中三七千人

地選年次、村お族合、四返水五、五、

下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、

二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、

貴族、村、山、山、山、山、山、山、山、山、

外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、

連、連、連、連、連、連、連、連、連、連、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、

長と於乎中ニあるの彈劾以深察ヲ於  
世シ若クも而五十四反有る中一は決  
議事の上通セシム政府ハ引責辭致  
ノ事ニ出テナリシヤ

貴族院ニ於ケル慶島ノ多數油紙紙  
質亦古の順ノ具議事精成滞滞然  
如し

本負ハ贊成者一人ニシテ贊成ノ意ヲ述ベントスル先立チ  
唯今、反對ナル園内君、説ヲ反駁致シマス一體象紙

負、總選考ニ官吏ノ手添シ其非違アリシハ衆議  
院選法ニテ條其、他ニ夫レク處理スル法カアル依リ  
之ニ依ツテ官吏ノ非違ト雖モ處分スル外ニ其貴族負ヨリ  
殊更ニ建議スルニ及バタイ且ツ貴族貴院ニテ是等ノ建  
議ヲナスト云々事ハ洵ニ其者ヲ得ナルモノデアルト云フノ意ニ  
過ヤナイ様デアアル然レ一ツが平常一様、各貴族派上  
ヨリニテ選考ノ競争ノ意多スルニ付イテモ、弊ヲ申スノミデハ  
ナイ是ハ六國家ノ治道大本ニ容易ナクカル關係ヲ世帯トス  
ルニ依リ此ノ建議ニナツテ居リマスルト思フ夫レ本負が贊  
成シタル趣旨ヲ述バマス官吏ノ選考ニ手添セシ弊

ハ本案及卷議者ナル山川君、述マレタ如ク、客易ナリザル  
客易ナリザル國家ニ大關係ヲ帯ビマスルヲ以テ、茲ニ重要ナル  
問題トナツタ所ナシ、詳細ノ事況ヲ述ベル者ナクテハ  
或ハ本案ヲ以テ漠然ナリトシ、是レ程ノ事ニテハ、眞ニ決議スルハ  
及バ、テハナクテ、幾ノ念、オカキ有ヨリカト思フ、因ツテ先以テ  
一地方ノ状況ヨリ、説キ始メ、本員ノ出身地ナル佐賀縣  
選舉事ノ當時ヨリ、今日ニ至ル迄ノ状況ヲ承知居ル數百件ノ  
一ニテ、摘ミテ、諸君ノ考察ニ供シマスルノ必要ヲ感じマスル  
概ニ其ノ状況ヲ述ブルニ、先キ一カ致シテ、オクテ、佐賀縣ニ於テ  
此度ノ選舉事ハ、人民各黨ニ、分ルニ生ゼ、ト非ズシテ、

官吏自身が威迫ヲ以テ、全縣下人民ノ選舉權ヲ左右セシム  
人民モ唯、終ニ是ニ與セシ、迄テアル故ニ、佐賀縣ニ於テ、  
吏黨トハ、吏ニ與セシモノニ、謂フニ、非ズシテ、多クハ、官吏其  
ノ々ヲ目スルノ稱ナリ。即チ、佐賀縣ニテ、吏黨ノ干渉  
威迫トヲ申セバ、取りモ、直サズ、官吏向テ、勸誘、誘威迫  
干渉シタルヲ、謂フテアル。是ニ依リ、官吏ノ選舉事ノ干渉者  
ニ、ツイテ、勸誘、威迫スル状況ニ、及ボシマス、大概官吏ノ勸誘ニ  
競ク所ハ、前代議員ノ命ヲ受ケシモノ、之ヲ再選スルハ、政府ニ  
對シ、情實ヲ盡テサルモノナリ。又、前代議員ハ、勸誘ニ適又  
モ、ナルニ、之ヲ再選スルハ、人民タルモ、陛下ニ對シ、不忠ニテアル

又我派、候補者を無論推挙職類、地價修正ニシテ其ノ目的ハ  
彼等ニ毫モ異ナラナイ唯彼等ノ政府ノ同意ヲ表セザルノ障礙  
カアル決シテ目的ヲ達スルノ見込マナシ具ノ見込ミナキモノヲ選  
具スルハ至過モナシト云フニ過テ和手段ヲ以テ設法サセ目的ヲ  
達スル我ガ派ニ如ク多ク人物ヨリ論ズルハ我ガ候補者ヨリ下等  
ナルモ右ノ見込カゲル然ル見込ミナキモノヲ選ブハ唯彼等  
ニ列シテ忠義ナルモ國民ノ慮ニハ不忠ナク我ガ派ヲ選バ  
ニ如カズト云フニアリシ收稅吏等ハ自家用酒検査藥賣  
検査等ヲ名義トシテ吏當ニ與ヒテ投票ハセザレバ嚴格  
ニ検査スベキ傾向ヲ示シテ之ヲ威嚇シ又營業酒造

感ハ宛モ酒ノ配ヲ造ル時期ニシテ若シ此ノ際故ラニ検査ヲ  
畏延スル傾向ヲ示シ強クテ酒造家ヲ若メ郡吏ハ所管區  
其ノ向々ハ或ハ公文ヲ以テ或ハ出口遠ク以テシテ直接面接奔走ヲ  
警察吏ニ有之者ハ選舉者ノ身ヲ提攜セシムト出行ヲ見レバ直チ  
ニ数名ニテ之ヲ尾シ入民相互ノ向ノ相諍ニ由リカラシメ公衆  
ニ向ッテ演説スレバ忽チ停止シ命ジ毫モ假借スル所ナク  
茲ニ運輸勅ノナキ地ナカラシメタ之ニ及シ吏當ニ使囑スル  
悪漢ニ甚或ハ選舉者區ニテハ三箇所ニ屯集ノ舉意ヲ構ヘ  
沿道ノ人民之ガ爲ニ住束ヲ遮断サレシト數日ナリシモ群衆  
ハ之ヲ制スレノ威力ナカリシニヤ殆ド不向ニ措キシ狀況ナリ

斯ノ如ク吏官ノ如ク到ニ在ルモノハ縦横白右直接ナリ由接  
ナリ葉尋奪ニ奔走シ曾シ障瀕ラセラル上ニ金錢ノ費用ハ切著ク  
割刺ハ平素官職ヲ帯ビシ身ヲバ甘シ權威ハ自然ノ民ヲ屈服  
スルニ足リ種々手杖至ラカク凡ク意ノ如クナラカレナキ  
有様ナリシ 民吏ノ状況之ニ於テ察スラレベシ 是ヨク一層  
ヲ道メサシウ 選界ノ當時ノ騷擾ニ及ボレマス

佐賀ノ縣ニ於テハ尤モ甚者ハ世回ニム所ノ壯士ニ非ズ皆  
放蕩無賴ノ博徒デアル之ヲ目シテ悪漢ト云フ扱テ吏官  
使喚セル其ノ悪漢ハ民家ニ暴入シ白晝白刃ヲ揮ヒテ  
主人ニ逼リ吏官候補者ニ投擲セザレバ斬リ殺ス

メント云フヲ以テシテ選界ノ人々之ニ反抗セシムトスレバ悪漢ノ  
テシテ郡村ヲ横行シ民家ト見レハ忽チ之ヲ殺傷シ乱暴  
狼藉至ラレル所ナリ婦女子ハ啼泣恐懼シテ匿ニ  
突ニ名狀スハカラヤルモアリシ中ニ就テ其ノ事ヲ尋テ  
二月十二日夜吏官ノ使喚セル悪漢二十余名各々白刃ヲ  
閃メカシテ郡村ニ入り其ノ村右往左往ノ際数人悪  
漢白刃ヲ振舞ヒ其ノ村中最も民權ヲ重ズル某家ニ乱入  
シ之ヲ居外ニ引キ出シ毆打レケル某ノ妻夫ノ大事ナリト  
婦女ヲテ刀ヲ提ゲテ戶外ニ飛出シ悪漢ヲ追ヒ拂テ其  
夫ヲ助ケテクリ柔筋ナル婦女子ヲシテ此ノ奮闘ヲナスニ至ラ

シテクルヲ見シハ當時を陰ニ歸ニ正當ノ御事ト扱  
セシモノ後ハカマリノ事モ亦無理ナラヌトテアリ  
其ノ状ハ察セズベシ又一事ヲ尋テカバ武ノ郡村ニ某たる  
アリヌラ作セ保ニ可留シ工事ヲ管ニ偶々所用ナリテ  
十五日即チ還奉ノ當日帰郷ノ途中数名ノ悪漢矢度  
ニ車ヨリ引キ下セシ何トノ地方モナルカウ問ヒシニ某ノ何人ナラ  
有ク儘答ヘラレバ悪漢其数名某地方ハ最も我が敵ナリ  
トテ席ク毆打シ重傷ヲ負ハシメギ死生ニ至ラシメタリ  
辛ジテ遁レ歸リ事ノ始末ヲ其筋へ告テシタリ當ニ還  
奉ニ關係ナキ一工夫サエ民出重視サレ尚木且ツ然アリ

其ノ北條者教場ノ民重ニ過多ナル事ヲ知レシ又一事ノ日見テ  
際奉日近クナルニ随ヒ武ノ郡村ニ悪漢徘徊シ頻リニ良民ヲ強迫  
スル事聞ルニ依リ某村長ニ名ヲ奉テ現地ニ出張シ取鎮  
メムトスルニ某が現狀ニ到着スル頃先徒等ノ隣村ニ轉ジテ其ハ  
廻リ居ルトノ事ニテ某ハ追跡セシト云ハ先徒ハ巡查駐在一ツ  
入りニ由リ聞イテ直チニ駐在一ツニ至リ啓言吏某ニ面談シ  
何故ニ斯クハ先徒ヲ駐在所ニ圍イ置クヤ是進者所ニ於テ  
民家ニ侵入シ暴行強迫スルハ皆弊ヲ察官ノ教唆指揮  
ナルベシト詰問セシニ其ノ啓言吏ハ現在同所ニ悪漢ヲ圍イ  
居ルコトヲハ殆ド答テ難シ踏躡シ居ル模様ナルニ因リ

悪漢の反ゾ威嚇ノナレドゴト考ヘシカ懐中ヨリ反劊ヲ見  
差シ顯ニシ身構ヘセシニ其ハ奮然立マカリ悪漢ヲ組ミ伏セ  
ニミ同行者モカヲ添ヘ悪漢数名ヲ組伏セ件ノ劊ヲキ  
取リ且ツ悪漢ノ姓名住所ヲ一々白狀サセテ其ハ直クニ  
該ノ劊ヲ證據品ニ添ヘ事ノ始末ヲ佐賀地方裁判ニ  
告發シタリ全縣到ル所騒乱狀況ハ枚擧スルニ  
遑マアラセ又以上大概ニ付イラモ其ノ息トカリシ事ハ  
察セズニマシ是ヨリ選舉事<sup>後</sup>ノ狀況ニ及ボシマス  
全縣到ル所騒乱狀況ハ縣下各地方ニ設置スル  
巡査駐在所ハ大概何所モ被訴モ候カニ人民事故

ヲ申立テ其ノ家屋ノ貸渡リ謝絶シ巡査ノ警ハ突ス署ニ  
一同詰居リ夜間及多数ノ人民目撃セル場所等ニハ  
何故カ巡視ヲナシマセ又博徒悪漢ノ横行ニ取締リ  
行キ届カザル模様ナル柳々田舎田舎程整頓案ノ  
取締リテ生命財產ノ安全ナルニ感ツテ其ノ保護ヲ  
抑キ居ルニモ似ズ何処モ彼處モ斯ク候カニ事故ヲ生ツテ  
折角是レ迄駐在ニ充テアルヲ謝絶スルトハ必ズ仔  
細アルコトナラズ諸君考察アルハ由志キニ巡キムト存ジ  
マス又選舉後國稅ノ不納者少キトス候ニ依リテ  
ナリト強キニ全縣ニ隔リシ事モキヤリヤハ定メ奉ル

其俄カニ多クナリ一ノ直接税分四者管内ニモ願シキ数  
ニテ是迄滞納者ナカリシ斯ク俄カニ多クナリシハ強クニ食良  
若ニ陥リシモテモアラザルベク是又考察アラバ思過半ハ  
ナルベシ殊ニ憫然ナルハ強道ヲ受テ吏量ニ與シ投票セシ  
人民デアル彼等ノ憲法ヲ以テ付與シシ貴重ナル堅忍事  
權ヲ他ヨリ左右セラシ或ハ利慾ノ多クニ迷ヒシモノナレバト云フ  
テ町村人民ノ風俗上ニ害スル方カラズ將來ヲ戒ルトテ徳義  
上交際ヲ絶タシ其ノ兒童ニ至ルマデ小學校ニ於テ齒セラシス  
シテ出ズルト協ヒマセヌ斯ク人民相互ノ由ニ至ルマデ僧  
鬼クテレバ袈裟長モ更タシト云フ諺ニ由シキ有様アルハ

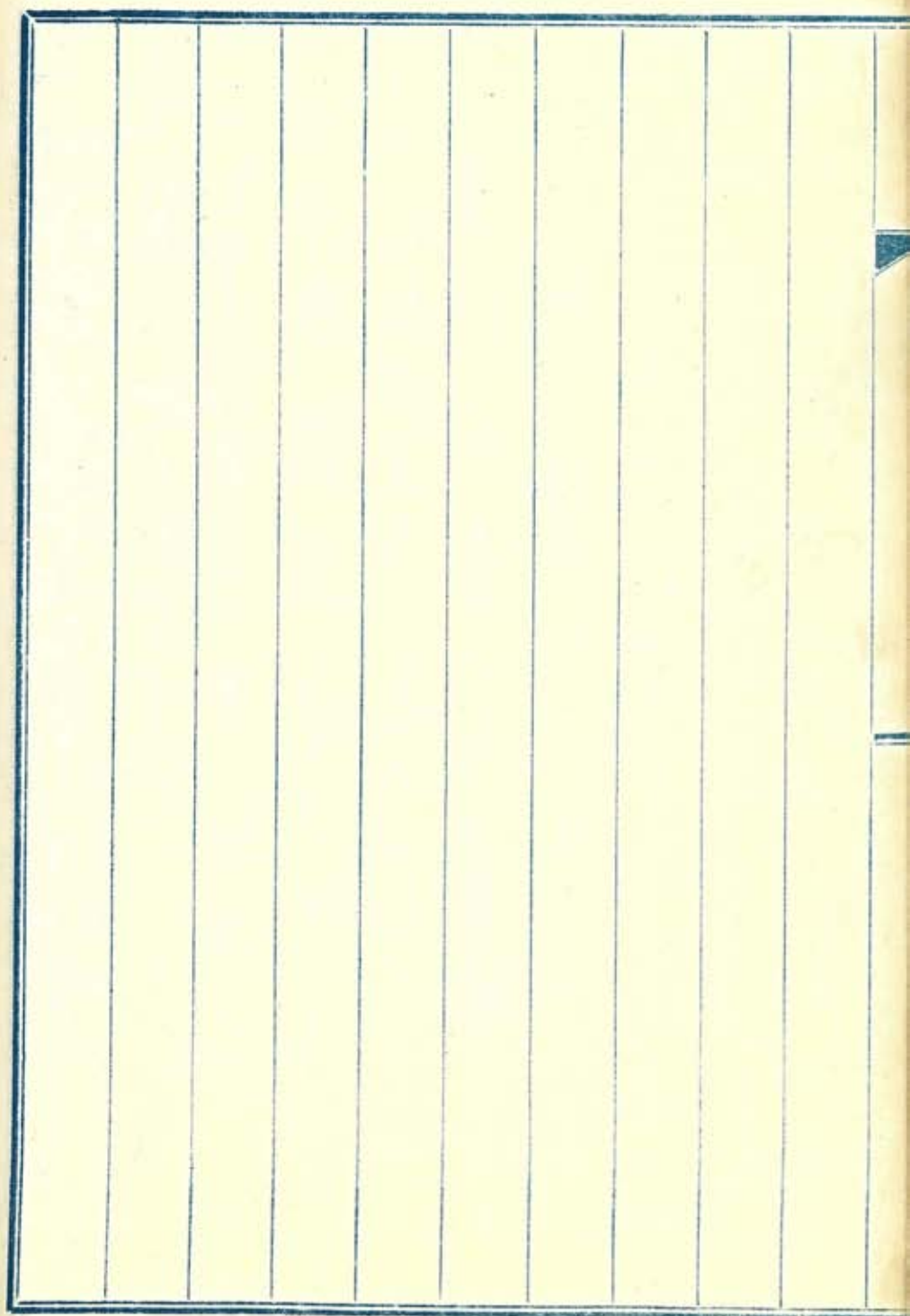
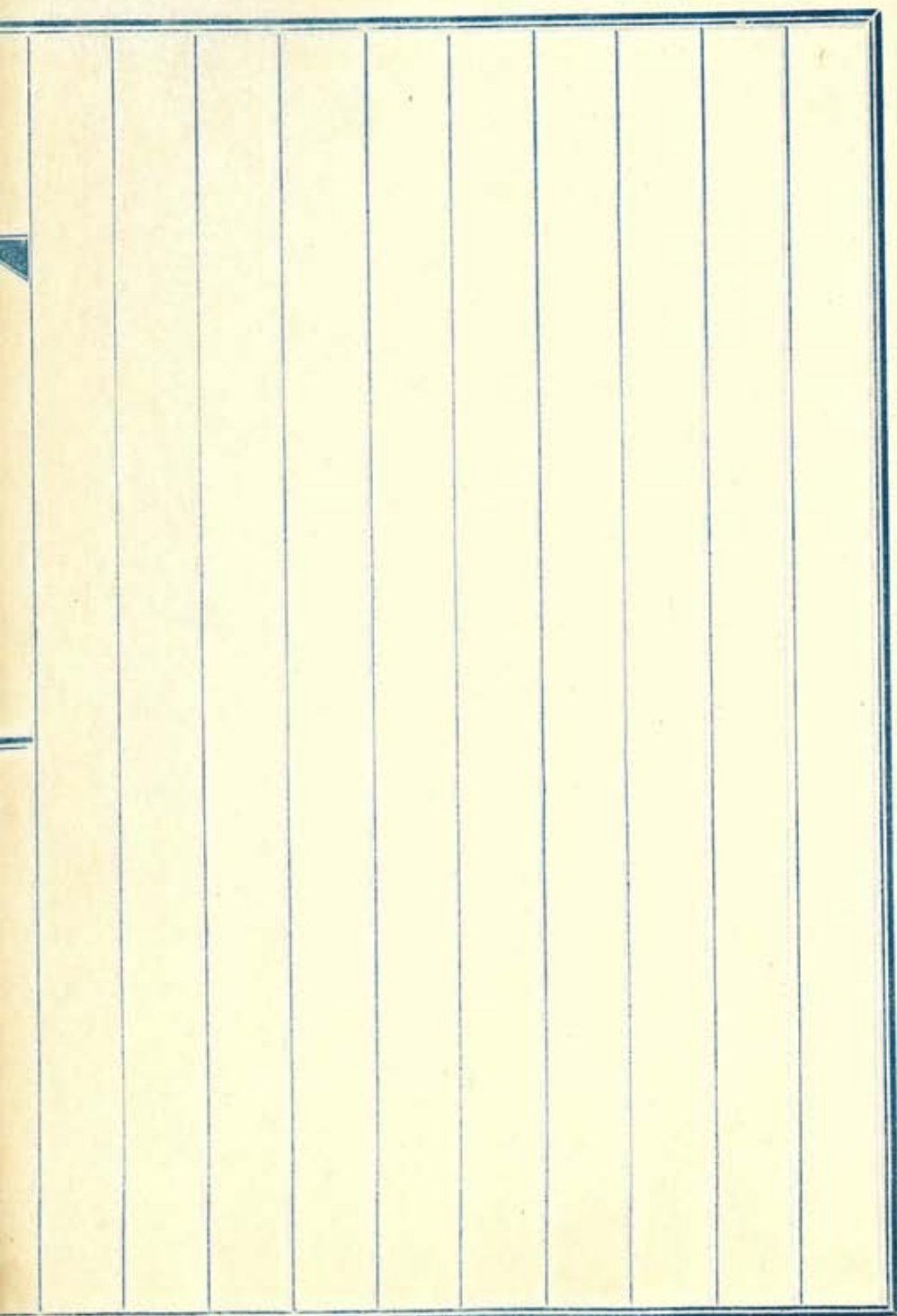
其ノ仔細ナルトナルベク是亦考察アラバ思過半デゾヤイ  
マセウ以上述べ来リシハ佐賀縣ノ状況ニシテ官吏職權  
ヲ濫用シ人民ノ選舉權ヲ左右スルニ半隨シ縣下到处或ハ  
直ヨリ流シ式ハ命ヲ墮スルノ慘狀ヲ呈シ憲兵ノ派遣ヲ要  
スル程ニ至リンガ其ノ強迫暴圧セラレシ怒ハ深ク骨髓ニ  
徹シ順良ノ民ト雖モ進イテ選舉權後ノ今日猶ホ命ニ  
官吏ヲ反目敵視スルノ有様ナシバ大概全国各府縣ニ  
於テモ之ニ準シマスル畢竟境斯ノ如キ弊事ハ立憲ニ政  
治ノ下ニアルベカラサルニ無論ニテ國家ノ不祥是ヨリ大ニ  
ハアリマス又苟モ治國ノ要ハ官民相乘成セズ協同一致

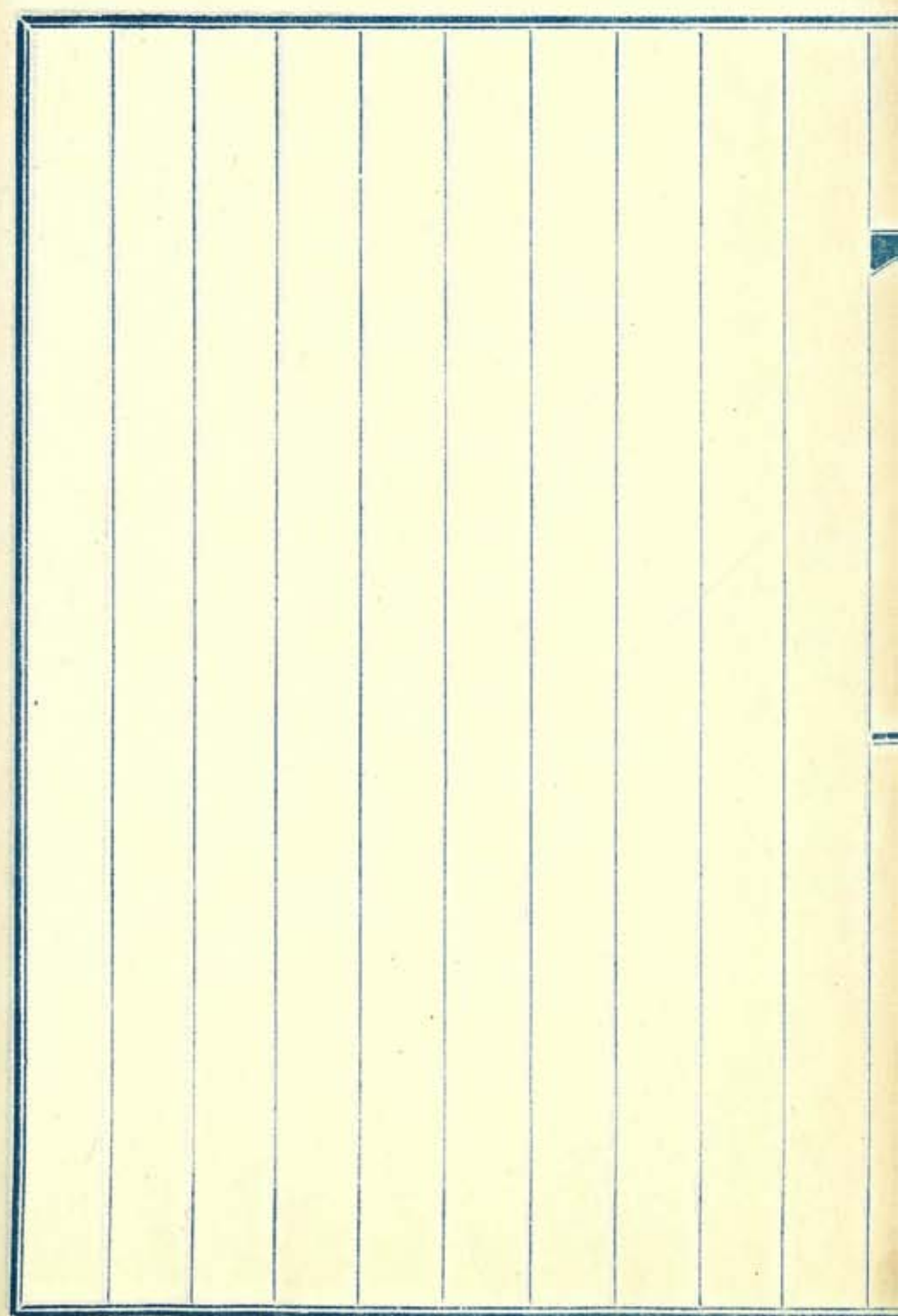
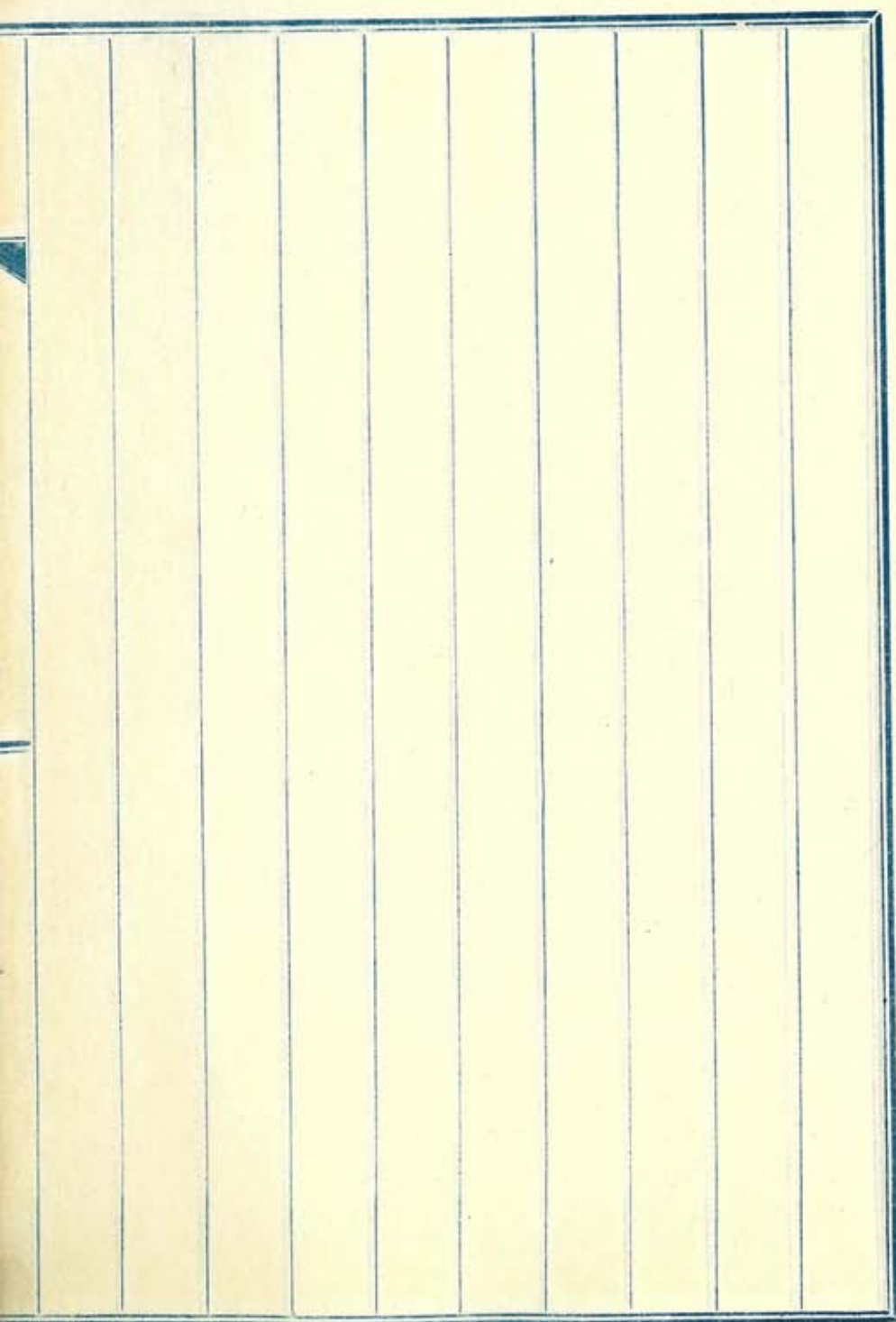


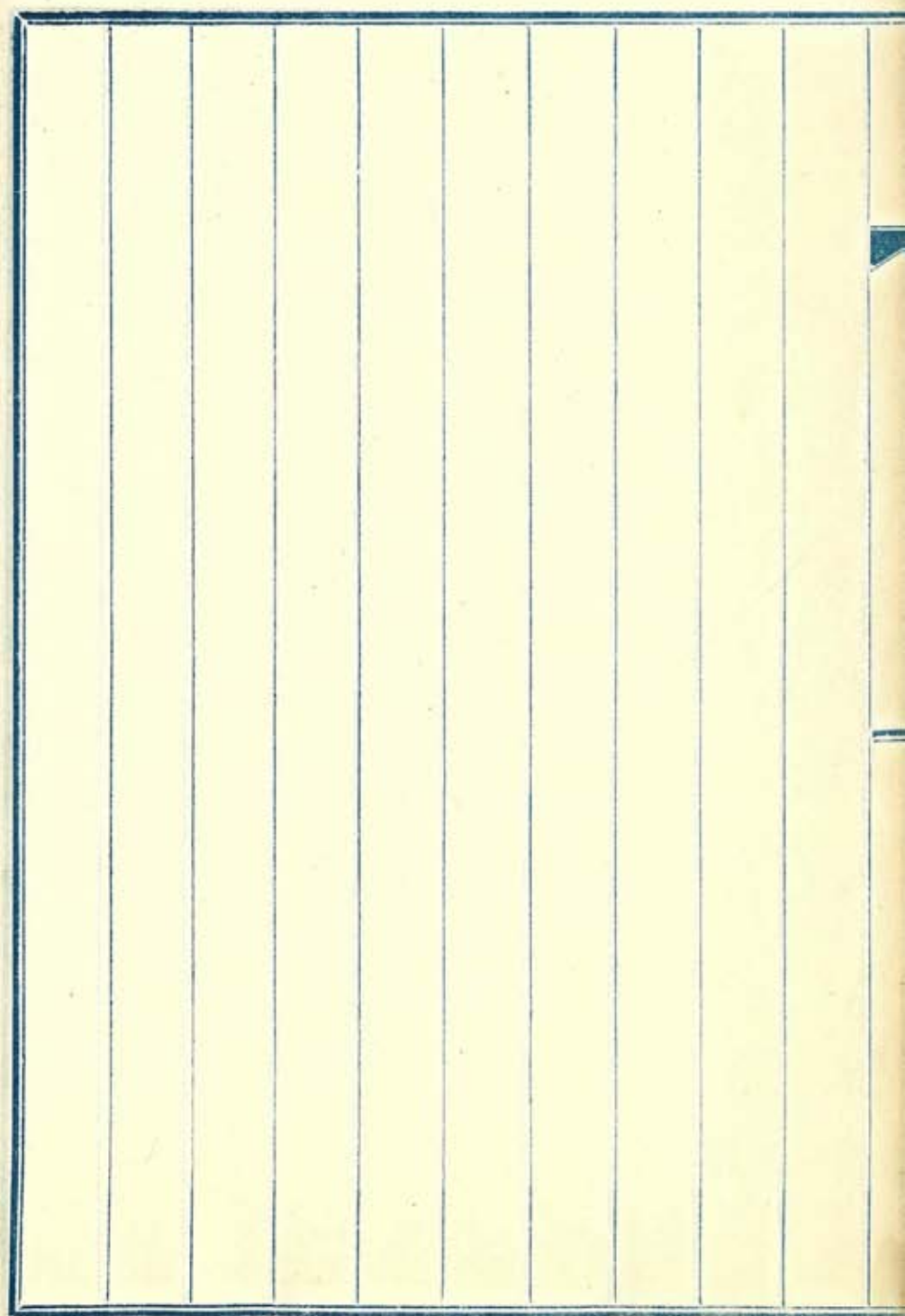
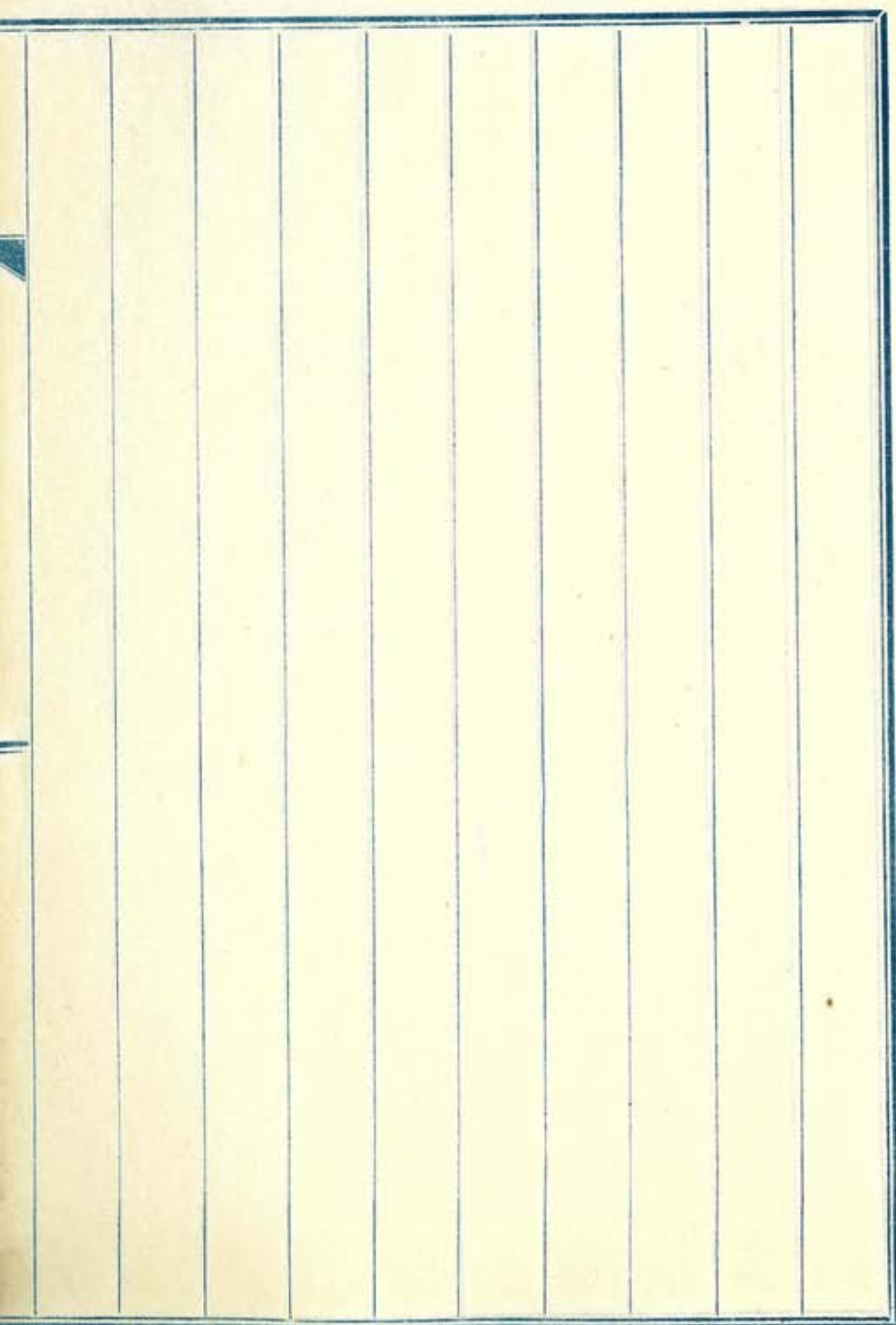
以テ安寧ヲ保ツテアリトセバ政府ハ第一著ニ此ノ于涉事  
件ニ判シ宜ク公正至キ、處置ヲナシ民心ヲシテ疎カニ  
釋然タラシメ官民ノ協和ヲ謀ヨクナクハナルマイ是ガ  
方今ウズル務中ノ最急務デアリ若シ之ヲ忽ケスレバ  
其ノ責ハ何処ニアリヤ即チ ~~上~~ 著者ニ於テハ  
貴族院ガ建議ヲナサシムベカザルノ所以本頁ノ如キモ  
本案ニ賛成シ國家ノ爲ニ忌憚ナク哀情ヲ吐露スル所以  
ニシテ公明ナル諸君ニ於テハ固ヨリ異議ナク賛成セらん  
ル事ト思フ

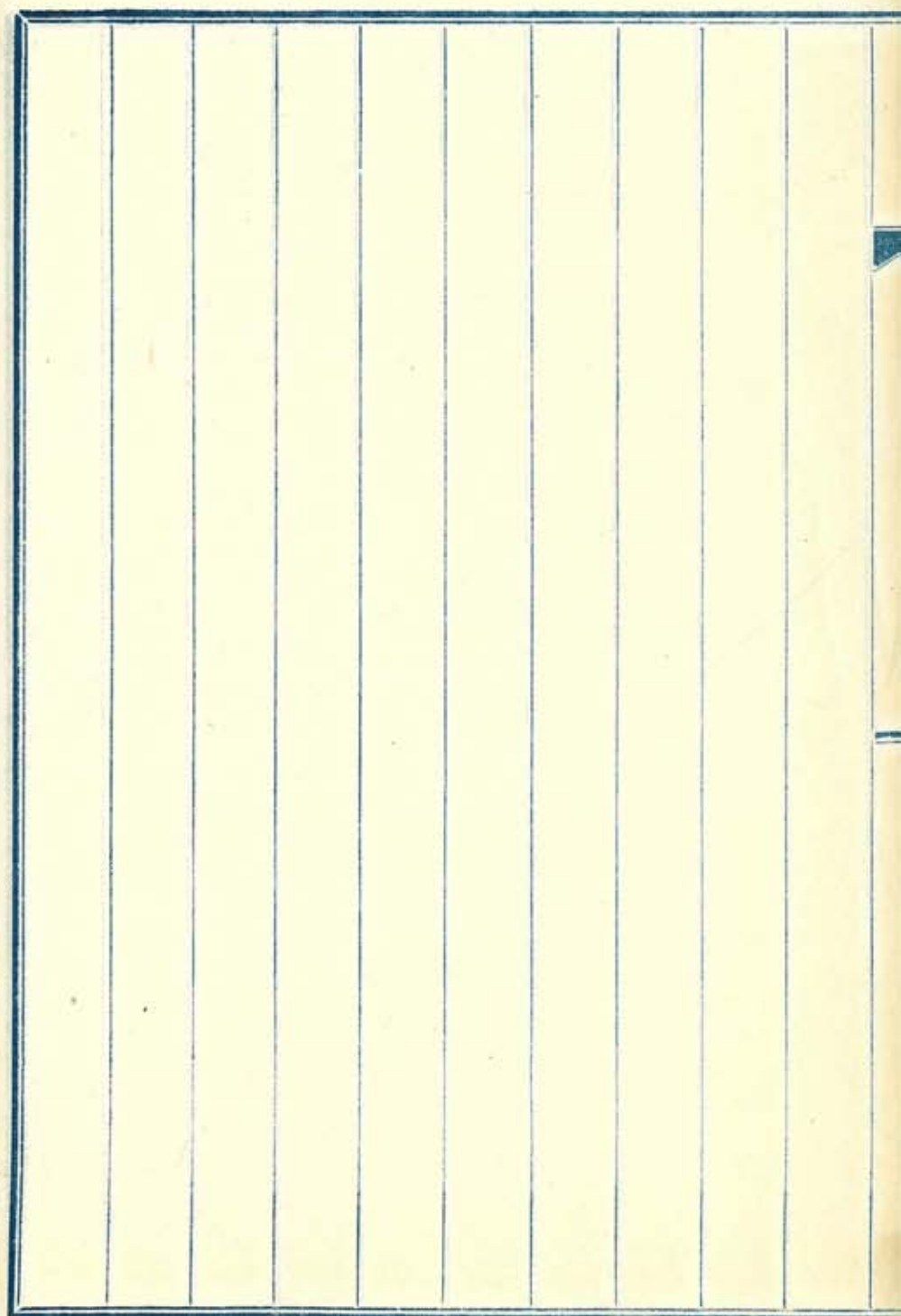
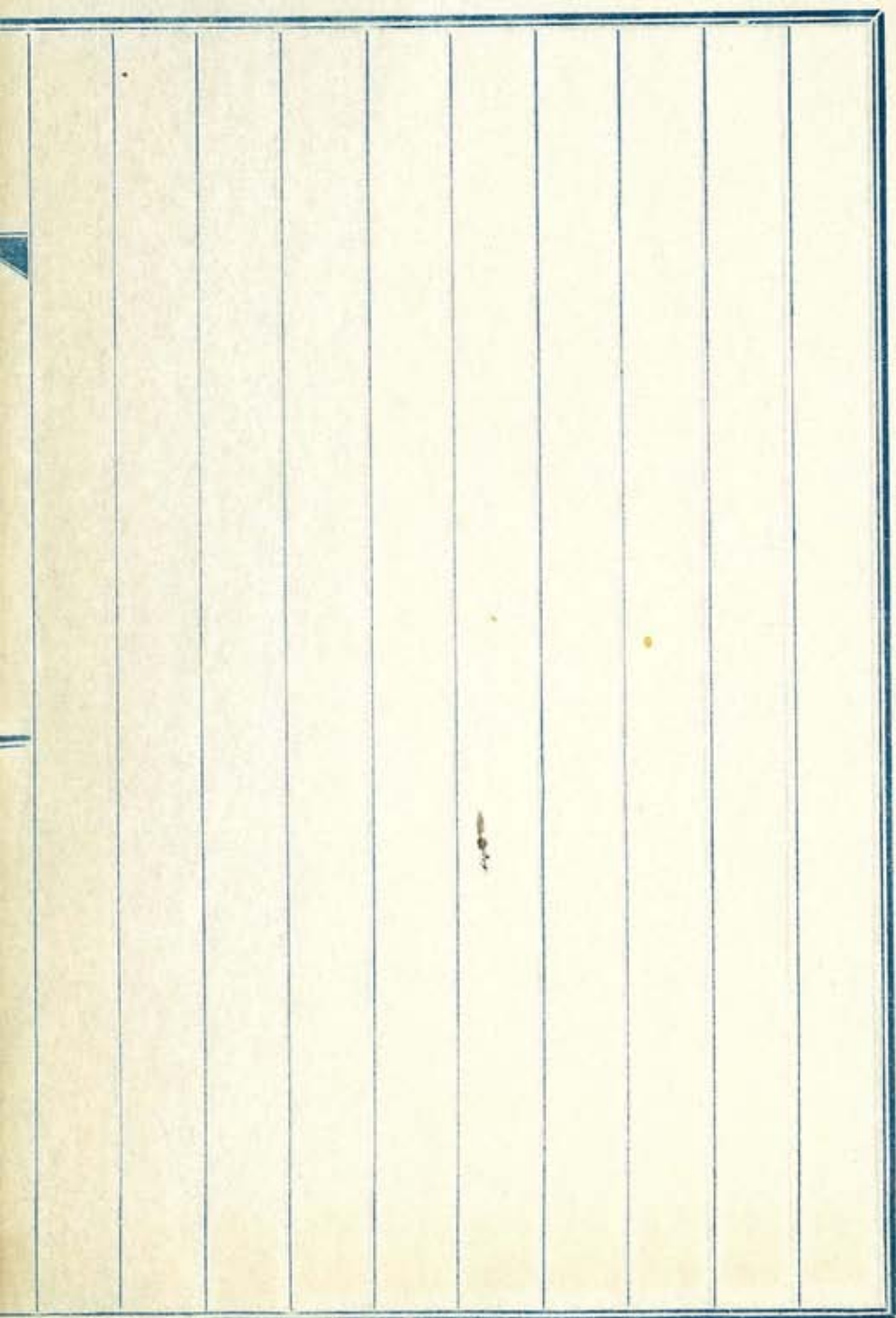
右陳述ノ次第ヲ讀ムニ於テハ其ノ對テハハニシ

テ連年來ハ且也日々復院議長野田氏  
義部氏之ヲ政府ニ送致スル









55-1395

~~55-1394~~

